

I COM IC-DPR6専用 無線機共用システム (TS-2500) 使用説明書

■目次

1	概要	1
2	特長	1
3	構成	1
4	仕様	1
5	システム構成	2
6	各部の名称と機能	3
7	子機の増設について	5
8	設定について (子機のみ)	6
9	施工上の注意点について	6
10	使用上の注意点について	6

※本システムは、2線式専用線(無電圧)用です。

2線式専用線以外の回線に接続されますと、本装置や交換機が故障する場合がありますので、接続しないで下さい。



親機 TS-2500BH



子機 TS-2500T

■1 概要

- ◇本システムは、1台の無線機を複数箇所で共用する、無線機共用システムです。
- ◇アイコム社製、ハンディ業務用無線機に接続できます。
- ◇一般アナログ電話回線と同じ信号を使用していますので、電話配線工事と同じ要領で施工できます。

■2 特長

- ◇全ての装置を、2線式専用線で並列接続する、分岐接続方式です。
- ◇全ての装置で、受信音声をモニターできます。
- ◇どの装置からでも送信が可能で、他の装置は送信音声をモニターできます。
- ◇通信状況を確認するLEDを内蔵しています。

■3 構成品

親機(TS-2500BH)	×1	
通信機用ハンドマイク	×1	
ゴム足	×4	
ACアダプター	×1	
標準子機(TS-2500T)	×1	
通信機用ハンドマイク	×1	
ゴム足	×4	
ACアダプター	×1	
増設子機(TS-2500TA)	×1	システム構成によって変わります
通信機用ハンドマイク	×1	〃
ゴム足	×4	〃
ACアダプター	×1	〃

■4 仕様

◇使用環境

- 動作温度範囲…………… -10℃～60℃(氷結および結露のないこと)
- 動作湿度範囲…………… 5%RH～85%RH

◇電源部

- 定格電源電圧…………… DC12V(最大DC16V)
- 消費電流…………… 100mA以下(DC12V、無負荷、スピーカー音量最低)

◇マイク入力部(MIC)

- 適合マイク…………… ダイナミックタイプ、通信機用マイクロフォン

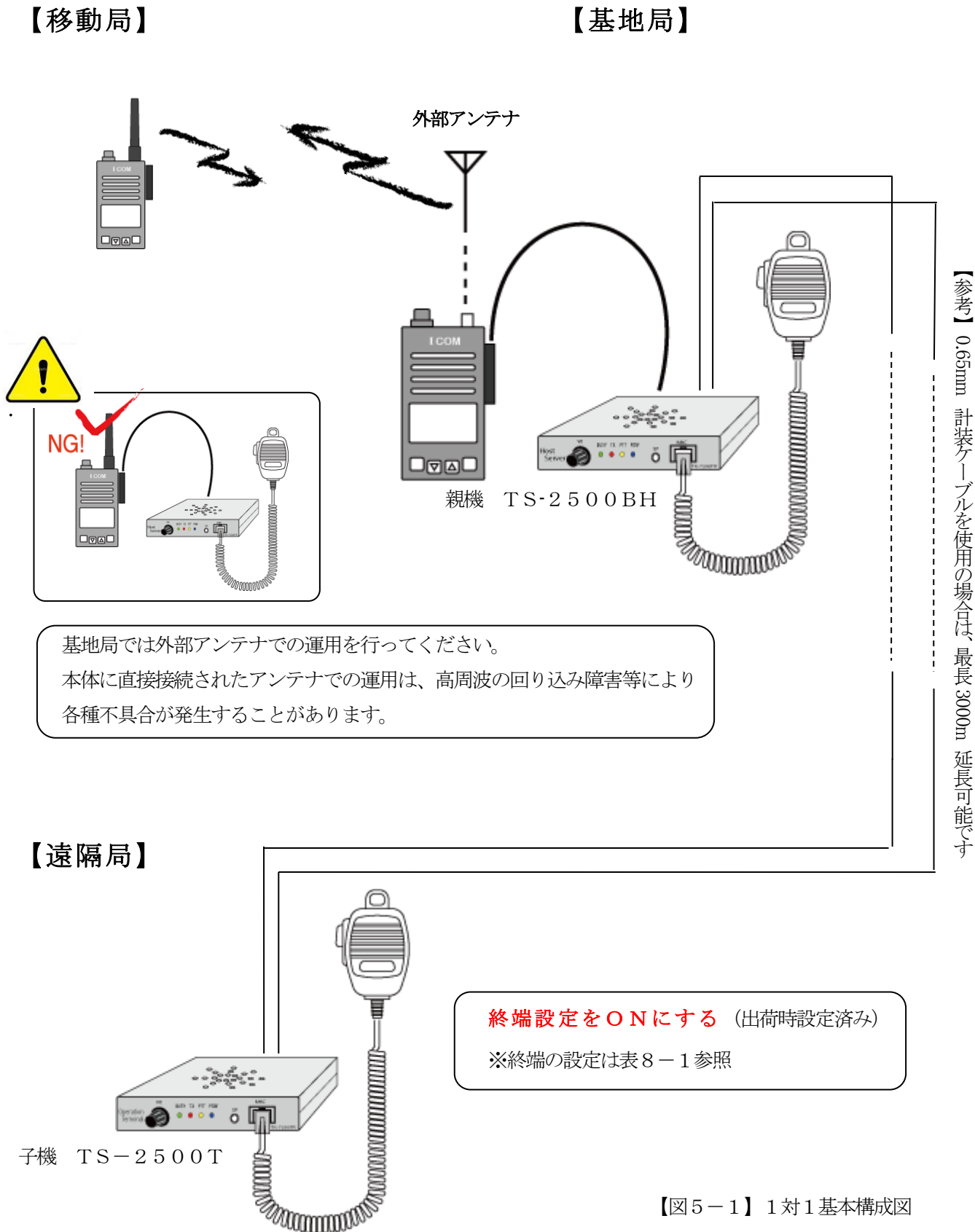
◇スピーカー出力部(SP)

- 駆動スピーカー…………… 8Ω以上
- 最大出力…………… 0.5W以上(DC12V、8Ω負荷)

■5 システム構成

基地局無線機を送・受信操作を、遠隔地からも可能にするシステムです。

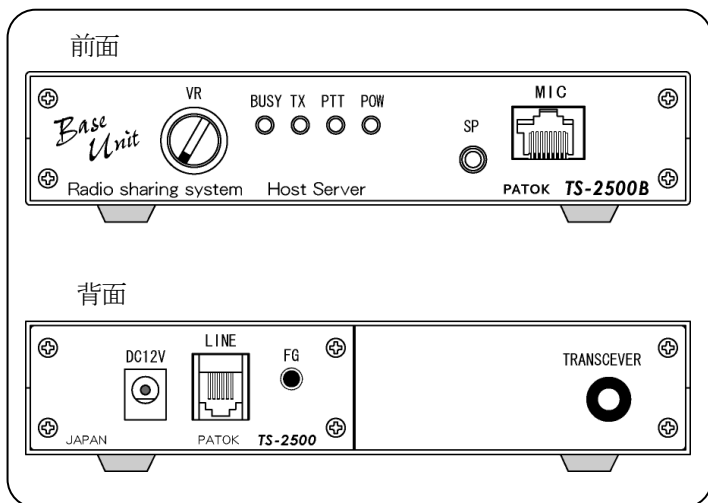
基地局に設置する親機と、遠隔地に設置する子機の間を2線で結合し、基地局の無線機を2箇所でも共用します。



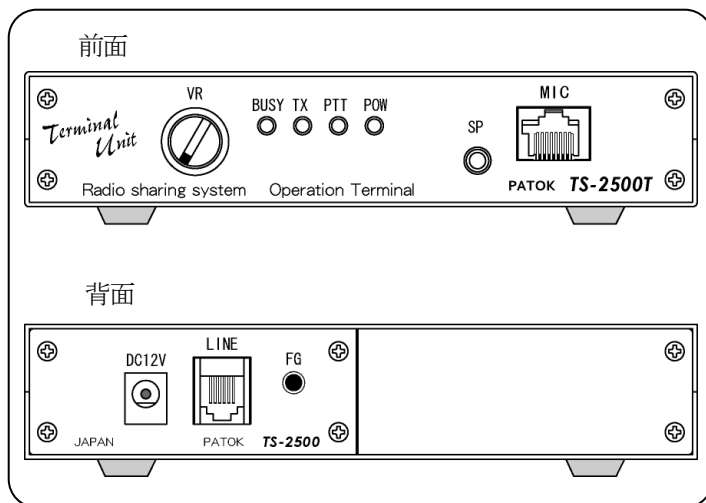
【図5-1】 1対1基本構成図

■6 各部の名称と機能

【図6-1】 親機 TS-2500BH



【図6-2】 子機 TS-2500T



【背面】

- 電源用のφ2.1(センタープラス)ACアダプタージャック(DC12V)

表6-1 DC12V φ2.1DCジャック

No.	信号名	備考
1	電源入力(+)	ジャックのセンターピンです。
2	電源入力(-)	GNDです。

外形5.5mm、内径2.1mm

センタープラス



【図6-3】

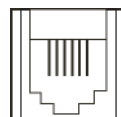
- 各装置間接続用のモジュージャック(LINE)

表6-2 LINE モジュージャック

No.	信号名	備考
1	未接続	
2	〃	
3	L2	各装置へ接続します。
4	L1	〃
5	未接続	
6	〃	

No.1 … No.6

(正面から見て)



【図6-4】

- 接地端子(FG)

- 無線機接続ケーブル(TRANSCEVER) …… 親機 TS-2500BHのみ

【 前 面 】

●スピーカー出力用のφ3.5ジャック(SP)

表6-3 SP φ3.5ジャック

No.	信号名	備考
1	スピーカー(-)	プラグの付け根で、GNDに接続してあります。
2	〃 (+)	プラグの先端です。
3	未接続	プラグの中央です。

※プラグを差し込むと、内蔵スピーカーの音は出なくなります。

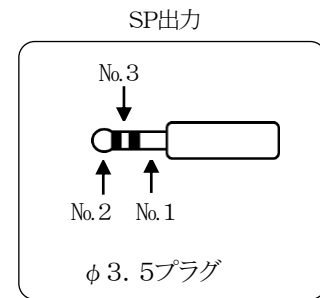


図6-5

●マイク接続用モジュラージャック(MIC)

表6-4 MIC モジュラージャック

No.	信号名	備考
1	電源出力	ACアダプタージャックのセンターに接続してあります。
2	ビジー状態出力	BUSY LEDと連動しています。
3	スピーカー出力	スピーカーアンプに接続してあります。
4	マイク入力	ダイナミックタイプのマイクロフォンを接続します。
5	マイクGND	〃
6	PTT入力	PTT(プレス・トゥー・トーク)スイッチを接続します。
7	PTTGND	〃
8	送信状態出力	TX LEDと連動しています。

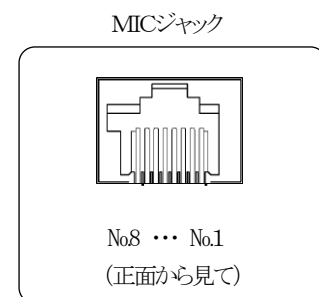


図6-6

※過負荷になるため、スピーカー出力を使用する場合は、内蔵スピーカーを取り外して下さい。

●BUSY LED

受信(スケルチ開)と他の装置が送信中点灯します。

●TX LED

何れかの装置が送信中点灯します。

●PTT LED

全ての装置が待機中にPTTを押下すると点灯します。

他の装置が送信中にPTTを押下すると点滅します。

●POW LED

電源が入っている間点灯します。

子機のみ、親機との接続(LINE)に問題があると点滅します。

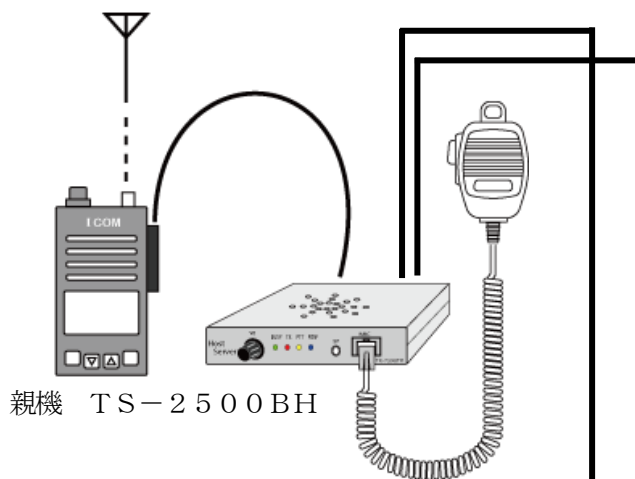
断線や親機の電源が入っていない場合、2秒周期で点滅します。

極性(L1・L2)が逆接続の場合、1秒周期で点滅します。

■7 子機の増設について

本システムでは【図5-1】で示す基本構成に加え、【図7-1】のように子機を増設することが可能です。
増設できる子機は最大6台で、標準子機を合わせると最大7か所で基地局の運用が出来ます。

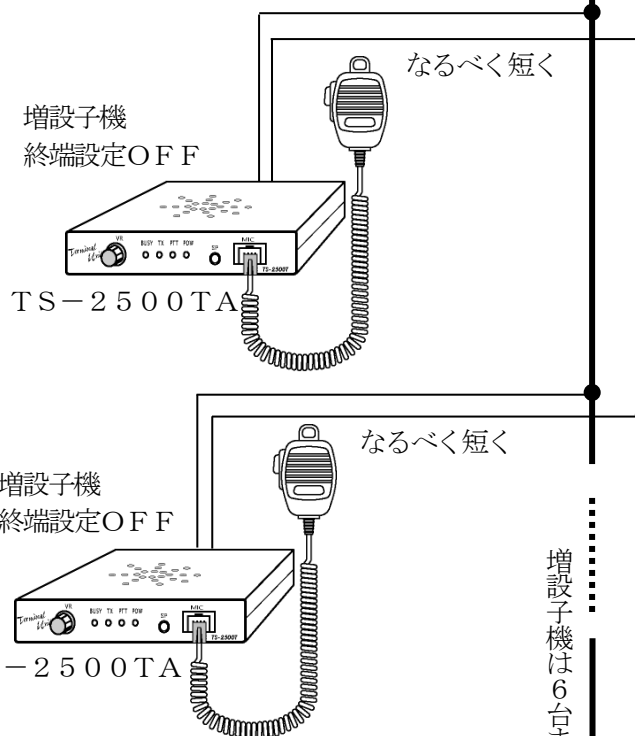
【基地局】



【遠隔局】 標準子機 + 増設子機

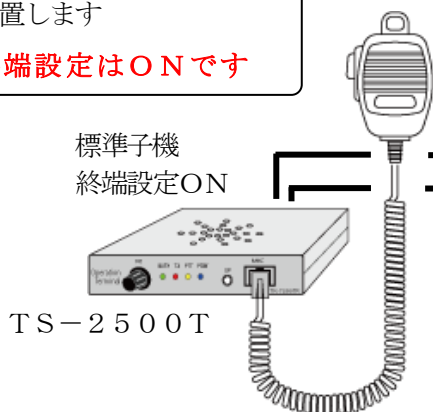
「増設子機」は幹線より
並列分岐にて接続します
分岐配線はノイズ等の影響
を軽減する等の配慮を行いま
す

終端設定はOFFです



「標準子機」は親機よりの
配線距離が最も長い場所に
設置します

終端設定はONです



※終端の設定は表8-1参照

「親機」と「標準子機」間の幹線は 0.65mm 以上の計装ケーブルの使用を推奨します

【図7-1】子機増設

■8 設定について(子機のみ)

本装置には、マイクゲイン調整とディップスイッチ設定(子機のみ)があり、設定は上蓋を外す必要があります。マイクゲインは調整してありますので、調整する必要はありません。

表8-1 S1 ディップスイッチ設定(子機のみ)

No.	機能	機種	O N	O F F	備考
1	LINE極性切り替え	全子機	逆極性	正極性	POW LEDが1秒周期で点滅しない方にして下さい
2	終端切り替え	標準子機	○	—	最も配線距離が長い子機を「標準子機」と呼び、終端設定をONにします 他の「増設子機」は、終端設定をOFFにします
		増設子機	—	○	
3	未使用	全子機		○	OFFで使用して下さい
4	設定モード選択	全子機	設定モード	通常動作	OFFで使用して下さい

No.2の設定を適切に行わないと、音声歪んだり小さくなり、聞き取りにくくなる場合があります。

■9 施工上の注意点について

- 各装置は、個々に電源を供給する必要があります。
- 本システムは、全ての装置を、2線式専用線で並列接続する必要があります。
CPEVかKPEV(計装ケーブル)での配線を推奨いたします。
雑音の大きい施設では、鋼管配管を推奨いたします。
- モジュラーコネクタを付ける際、できるだけ極性を合わせて下さい。
- 本システムは、極性によって送信と受信を切り替えています。
子機の設定で、極性を変えることはできます。
- 複数の子機を使用する場合、分岐線がなるべく短くなるように配線して下さい。
- 終端をONにしていない子機は、ハイインピーダンスで受けるため、雑音の影響を受けやすくなります。

■10 使用上の注意点について

- POW LEDが点灯状態でない場合、正常に通信を行うことができません。
電源や配線をご確認いただくか、取扱業者にご相談下さい。
- 無線機の音量を、親機と子機のバランスに配慮して調整して下さい。
頻繁に調整することは避け、本装置で音量調整して下さい。
IC-DU65S(RRC45)の場合、12が適当と思われます。
- 他の装置が送信中は、PTTロックが働き、PTTを押下しても送信できません(PTT LEDが点滅します)。
- 複数の子機のPTTを同時に押下すると、PTTロックが働かず、混ざった音声を送信してしまう恐れがあります。
このような状態が生じないように、ご配慮願います。
親機と何れかの子機のPTTを同時に押下したときは、親機を優先します(当該子機のPTT LEDが点滅します)。
- 本システムは、送受信の切り替えに約0.5秒かかります。
一呼吸おいて(TX LEDの消灯を待つ)から送信を行って下さい。
- 雑音の大きい施設では、送信が中断になることがあります(TX LEDが消灯します)。
取扱業者にご相談下さい。

PATOK

松本無線パーツ株式会社岩国

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町4-14-24

TEL(0827)24-0081(代)

FAX(0827)24-1444

2024.7 改定